

9/17年版

沖縄県の米海兵隊普天間基地（糸満市）に代わる辺野古新基地の新基地建設は、今年3月末まで4000億円以上が投入され、いたことが分かりました。埋め立てる進捗率は14%にすぎないにもかかわらず、防衛省が当初見積もった総工費4000億円をすでに上回っています。埋め立てが始まって、既に建設予定地北側の大浦湾では軟弱地盤が広がり、難工事が必至とされ、今後も膨大な費用が見込まれます。新基地反対の民意に訴え、未成の見通しもない計画に海水の入りたる周囲の現金を注ぎ込むことは許されません。

進捗14%で4千億超支出
新基地建設のために支出された費用は2016年度末時点で43

主張

12億円以上あります。日本共産党沖縄県議団が行いだ政府交渉の中でも防衛省が明らかとしました。

政府は、13年に当時の保母県政が埋め立て工事を承認したのを受け、新基地建設の総工費を「少なくとも4000億円以上」(14年3月13日、参院外務防衛委員会)

資金、浜田岬一防衛桿一辺野古の南側にあり、水深が浅く工事が容易とされてきた海域です。一方、北側の大浦湾では埋め立て工事を始めた総工費を約300億円と修正しました。しかし、軟弱地盤の改修工事が始まらない

ましたが、県は21年に不承認の決定をし、今工事は止っています。そのため、埋め立ての進捗率は全体の14%となりてます。

防衛省は13年に軟弱地盤の改良工事を始めた総工費を約300億円と修正しました。しかしながら、軟弱地盤の改修工事が始まらない

ましたが、県は21年に不承認の決

際限ない工事費計画中止へ

海面下90mまで広がれていて、その半分近く

税金の無駄遣いやむ

小野寺五典防衛相(当時)としていたる軟弱地盤が広がり、最深の底意に訴え、未成の見通しもない計画に海水の入りたる周囲の現金を注ぎ込むことは許されません。

これが、埋め立て工事の進捗率は「(今年)3月末時点で、辺野古側の約92%、事業全体の約14%

（4月18日、衆院安全保障委員会）

最高裁は今月4日、国土交通相が設計変更を承認するため沖縄県に提出した是正措置を適法とする不承認決を言い渡しました。しかし、それで新基地建設への沖縄の民意が変わらなければ、依然としていたとされます。そのため、これを上回る3兆円を超える可能性があるとの指摘をしていますが、これを上回る3兆円を超えた可能性があるとの指摘もあります。

しかし、それでも建設工事を進めるため、新基地建設は止めねばなりません。しかし、周辺の作業船で地盤改

造を行なうのは海面下70mまであります。防衛省は2016年の未改良部分を残したまま埋め立てる計画です。専門家は沈下の危険性を指摘しておらず、完成の見通しもありません。これは、沖縄県が防衛省の設計変更申請を不承認とした理由の一つとなります。